

情報

No.574

島根県教職員協議会
 〒693-0011
 出雲市大津町2214
 Tel 0853(22)7762
 Fax0853(22)7762
 代表者 安達利幸
 編集人 石原康博

E-mail
 office@kyougikai.org
 http://
 www.kyougikai.org

【お知らせ】
 八月二十六日に予定をしていました「幼稚園講師研修会」は、出雲市の幼稚園教諭の募集が今年度はありませんので、中止にいたします。
 十二月に来県する原田隆史氏のリーダー塾の記事が「日経ビジネスAsociate」が特集で掲載されています。

第24回全日教連教育研究大会 岐阜市で開催

大会主題 「生きる力」を育てる質の高い教育の創造
 ～子供の心を育み、学ぶ意欲を高める教育実践を目指して～

行われた。また、午後からは助言者シンポジウム「行列のできる教育相談所」が行われた。二日目には、文部科学省 大臣官房審議官 前川喜平氏をはじめ多数の来賓を迎え盛大に全体会が行われた。その後、俳優の八名信夫氏の記念講演「他人の子を叱るのも大人の思いやり」が行われた。
 島教協からは、安達利幸会長（城北小）をはじめ十一名の会員が参加し、有意義な二日間を過ごした。



八月四日（土）・五日（日）の両日、岐阜市の長良川国際会議場、岐阜都ホテルを中心に「第二十四回全日教連教育研究大会」が開催された。

一日目は、七分科会に分かれ全国各団体より選出された教職員

資質向上を目指す
 有意義な二日間



猪目を大切にし、誇りに思う気持ち、地域の方と一緒に猪目の自然を守っていくという児童の強い意志が流れている」と語り、鰯淵小学校猪目分校での総合的な学習の時間の取り組みを発表した。他県の参加会員からも質の高い取り組みであると好評を得、指導助言者の村川雅弘氏（鳴門教育大学教授）からは、「ぜひ訪問したい」と絶賛され、豊かな体験と活動をもっと広く発信してほしいと次のステップへのご助言をいただいた。



提案発表（第四分科会）
 岡村 朗教諭（鰯淵小学校猪目分校）
 「小規模校および地域の特色を生かしたふるさと教育の実践」

第四分科会では、島教協より岡村朗教諭（鰯淵小学校猪目分校）が「小規模校および地域の特色を生かしたふるさと教育の実践」をテーマに約30分の提案発表を行った。岡村教諭は、「環境学習二十年の取り組みの中には、常にふるさと



第4分科会の様子(参加者約100名)

記念講演 八名信夫氏



大会二日目には、記念講演として俳優の八名信夫氏が「他人の子を叱るのも大人の思いやり」を演題に講演を行った。

自らの俳優としての経験や苦労話等をユーモアをまじえながら「子供に対して無関心な大人が多い。」「真剣に愛情をもって他人の子を育てていく。」「など約九十分子供に対する思いをお話しいただいた。
 特に、八名氏が恩師から言われた心に残る言葉として紹介されたものが印象的であった。
 ・人に好かれることはいいこと。
 ・人に好かれようとして生きるな。
 ・人が何かをやってくれるのを待つな。
 ・何かしようとする人間を、何もしない人間が笑うな。

全日教連 教育研究大会(岐阜大会)

島教協参加会員より

▽岡村 朗氏(提案発表者 鵜淵小学校猪目分校)

初めての教研大会参加が、台風五号上陸の影響で予定の列車が運休、一時間遅れの出雲出発となってしまいました。そのため、提案発表に対する不安な気持ちがありました。しかし、無事に到着した後は、全国大会という大舞台へのプレッシャーを感じながらも、岐阜組を中心とした大会運営担当の方々のこやかな笑顔、温かなサポートのおかげで、徐々に楽な気持ちになって分科会に臨むことができました。

私が参加した第四分科会では、総合的な学習の時間の指導と評価について、熱心な協議が繰り広げられました。三つの提案発表は、いずれも地元のエデュケーションを最大限に生かした特色ある取り組みでした。島根県だけではなく、全国各地でふるさと教育が推進され、郷土愛や豊かな心をもつ児童・生徒の育成が図られていることが改めて認識できました。私自身、無事に提案発表を終えることができ、指導講師の村川雅弘先生(鳴門教育大学教授)からの確かな指導を受けた上に、「今度あなたの学校に行ってみるから。私がこう言おうと、九割本だからね。(笑)」というお言葉までいただき、大変うれしく思いました。そして、参加会員の方々からのご意見やご感想、村川先生からの同じ規模校の実践紹介は示唆に富んだもので、今後の実践への意欲が非常に高まりました。人と人のつながりの大切さを実感し、たくさんの学びが深まった有意義な研修となりました。

▽永見正司氏(大社小)

今回初めて教育研究全国大会に参加した。その規模の大きさに驚いた。私は、第二分科会「生徒指導」に参加した。これまで、小学校の生徒指導について実践してきたが、高校の生徒指導について発表を聞くのは初めてで、興味深く聞かせてもらった。

子ども達に生きる力を育てるためには、子ども達が目標を共有でき、目標達成のために何をすればいいのかをしないのか、何を大事にするのか具体的に持たせることが大切だと感じた。それは、小学校でも高校でも同じで、クラスとして目標に向かって活動する中で、中間と擦れ合いぶつかり合いながら、仲間を受け入れ認め合う関係が生まれる感動が生まれていく。そこには、教師の厳しさだけではなく徹底的に面倒を見る優しさがそうさせるんだと思った。

高校では、「懲戒」について発表された。ただ聞いてみると、厳しさ≡懲戒という考えに聞こえたが、そこに至るまでの、教師の優しさを基盤にした「ぶれない指導」「毅然とした指導」のひたむきな継続があることを知った。現在のあふれる情報の中、ニートや援助交際など歪んだ価値観が広がる中での、正しいことの指導は本当に難しいと感じた。

学校紹介

松江市立宍道中学校 大野原分校

大野原分校は児童福祉施設である県立わかたけ学園の児童生徒に学校教育を行うというねらいから平成2年に設置されました。授業では少人数を利用し生徒一人一人と密着した学習活動を行っています。

放課後は教員が寮活動に参加し、生徒とともに野球やバレーなどのスポーツを行い、汗を流しています。このように子供たちと共に学び、成長できる学校です。また、学園職員と生徒一人一人への関わり方や指導方法について連携して取り組んでいることが他校と大きく違うところです。

出雲市立佐香小学校

佐香小学校は、日本海が見える小学校です。

全校生徒79名の学校です。

うちの学校の自慢は、海に関係する仕事の見学や体験活動ができることや、学校までの長い坂道を頑張って歩くので、体力がある子が多いことです。

人権・同和教育「温かい人間関係作りをめざして」に取り組んでいます。



▽小川あけみ氏(荒木小)

私は、第六分科会の健康教育に参加しました。食育に関しては二つの発表がありました。家庭の教育不足を嘆くのではなく、取り組みが子ども達の生涯の健康づくりのため学びの場へと発展していく可能性を強く感じさせる発表でした。そして一つは中高一貫教育における保健主事としての取り組みで、教育相談活動の体制を充実させるための工夫や成果についての発表でした。養護教諭の目をもちながら保健主事を兼務する醍醐味を感じました。質疑応答も活発で我々の日々の実践の中の悩みも共通することが多く、自分自身が勇気づけられる大会であることを痛感しました。

記念講演は笑いあり感動あり、考えさせられることありの本当に有意義な講演だった。八名さんの自分を見つめる目と自分を生かすための努力、「青汁」のCM以来変わっていく社会からの要請など柔らかい心で受け入れ、それも自分の糧としてしまう力強さを感じた。また、実際に八名さんが他人の子を叱っている姿を見たと思った。きっと、厳しくも優しさにあふれた姿なのだろうと思う。私たち教員は、もっと自分に厳しい目を持ち、強い心で「正しいこと」を教えていかねばならないと感じた。当たり前のことを当たり前に教えられる教員に大人になりたいと思う。